

古道歩きやキャンプ人気

紀北町 道の駅やPA連日満車

紀北町では連休後半、自然体験スポットが人気を集め、県内外から訪れた観光客や帰省客でにぎわう光景があちこちで見られた。

東長島の道の駅紀伊長島マンボウではツーリング仲間のオートバイが集結するいつもの光景が見られ、長島名物のまんぼう串焼きに

長い列ができた。各地の仲間と待ち合わせていた名古屋市の自営業倉野和昌さん(54)は「関東から四国まで20

30人で合流して恒例のツーリング。この地方は海と山が広がる景観が魅力で走っていて気持ちが良い」と笑顔を見せた。

東長店長(68)は「天気にも恵まれた後半(3〜5日)をピークに客入り、売り上げとも昨年以上。車中泊の利用や家族連れが芝生広場でくつろぐ滞在型施設に定着し、城ノ浜地区の観光客や帰省客の立ち寄りで土産物がよく売れている」と話していた。

紀北パーキングエリア(PA)始神テラスはマイカー客で駐車場が埋まり、食堂、物産コーナーとも混雑が続いた。町観光協会によると、立ち寄り客は昨年より多く町内の人気スポットや海鮮の食堂、宿泊施設の問い合わせが多かったという。観光バスの立ち寄りも戻りつつあるがコロナ前ほどにはまだ至っていないという。

相賀の国道42号沿いの道の駅海山の駐車場も県外ナンバーを中心に連日満車となり、馬越峠登り口から天狗倉山や便石山を目指すハイカーの姿が見られた。同施設を管理する岩本修代は「前半は天気



子どもたちでにぎわうアマゴつかみ取り大会(紀北町便ノ山のキャンプイン海山で)

の影で入込客が少なかったが、後半は馬越峠を目指す家族やグループが多く、食堂やカフェが盛況で売り上げが伸びている」と話していた。

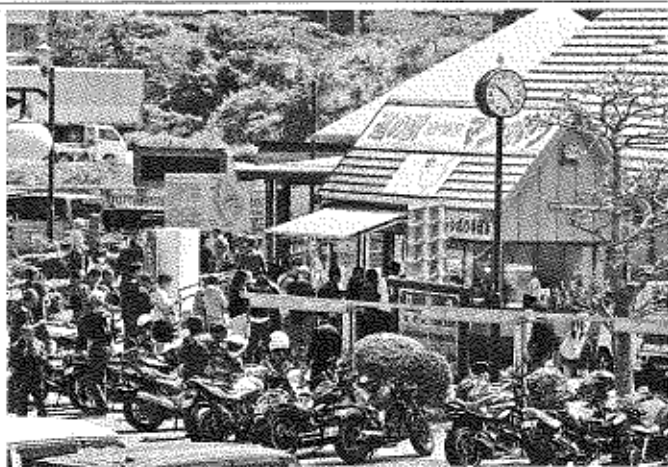
便ノ山の町営オートキャンプ場「キャンプイン海山」は家族連れで子どもたちが体長

約20センチのアマゴを捕まえて歓声を上げていた。同施設を運営するNPO法人ふるさと企画舎によると、今年は2泊3日の滞在が多く外国人観光客もいたという。森本真理マネージャ(57)は「新型コロナの収束でキャンプブームは少し落ち着いた感じがするが、GWは若者のリピーターを中心に大盛況でよくにぎわっている」。

便ノ山の地域公共施設すんべら亭では3、4の両日、町域おこし協力隊西川みさ枝さんがイベント「木に触れる、木と遊ぶ」を開催。町内外の家族連れ約80人が尾鷲ヒノキの輪切り板を利用したコースターや竹のストロー作りを楽しんでいた。

今年も特別開園の町営種まき権兵衛の里はGW中、帰省客や町内の家族連れを中心に例年より多い約800人が訪れ、子どもが芝生を走り回ったり、コイの餌やりを楽しんでいた。光景が見られた。管理人の植松登典さんは「ここは紀北町の憩いの場。家族連れで足を運んでくれてにぎわう姿が一番うれしい」と話していた。

便ノ山の町営オートキャンプ場「キャンプイン海山」は家族連れで子どもたちが体長



天気に恵まれ帰省客や観光客でにぎわう道の駅マンボウ(紀北町東長島で)